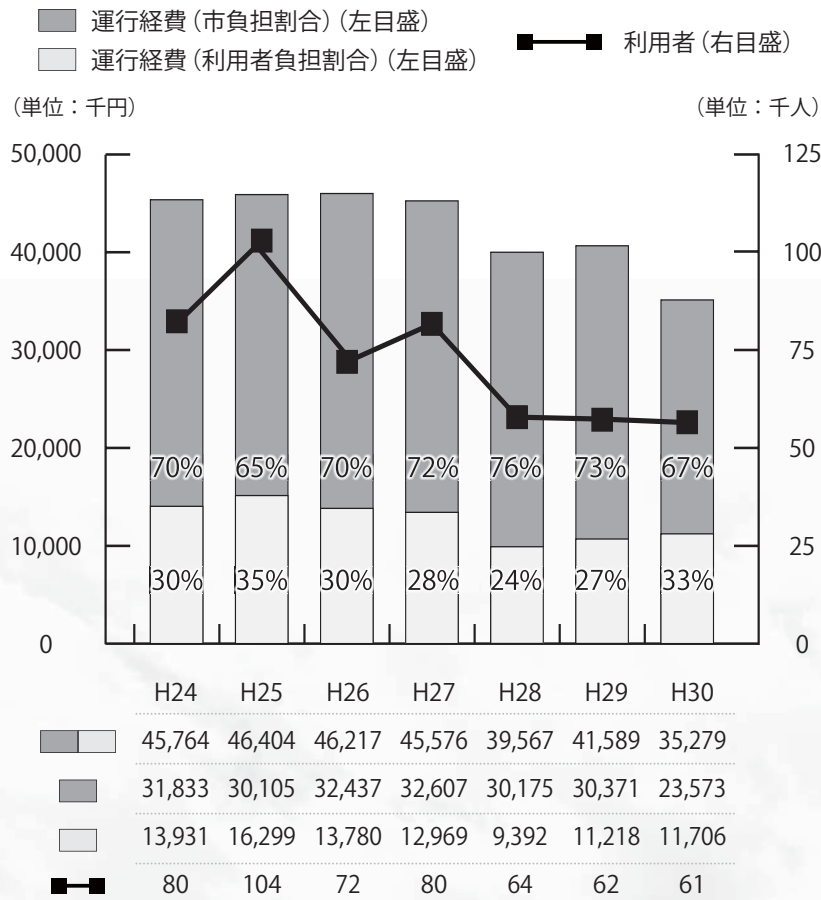


市自主運行バス利用者・財政負担の推移



例えば、全国的に広まる「デマンド型」の公共交通。予約時のみ運行するこの取組は、市でも導入しています。

例えば、一人ひとりができる対策。普段はマイカーを利用しているという人も、外食をする際にバスや電車を利用したり、休日にバスや電車に乗って旅をしたりすることが挙げられます。公共交通を利用することで、いつもと違った伊豆の国市を再発見することができるかもしれません。

小さな「きっかけ」の積み重ねで、公共交通のミライは変わってきます。まずは、地域のバスや電車に乗ってみませんか。

公共交通のイマ／今

伊豆の国市は、市街地を南北に伊豆箱根鉄道駿豆線が走り、伊豆長岡駅を中心としたバス路線を形成するなど、豊富な交通手段を有しています。しかし、現状ではマイカー所有者の増大や交通ニーズの変化などにより、公共交通利用者の減少が進行しています。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を来年に控え、年間200万人を超える予想される観光客の移動手段確保も課題の一つです。特に利用者の減少が顕著なのは、バス事業。市では、生活を支える「自主運行バス」の赤字を補填しており、その額は年間2,300万円を超えます。

課題の解決には、公共交通の利用が一番。公共交通をミライにつなげるため、さまざまな方法が考えられます。

公共交通のミライ／未来

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を来年に控え、年間200万人を超える予想される観光客の移動手段確保も課題の一つです。特に利用者の減少が顕著なのは、バス事業。市では、生活を支える「自主運行バス」の赤字を補填しており、その額は年間2,300万円を超えます。

率的な運行を目指して市内2路線の統廃合を実施。平成30年度から運行していますが、利用者数の減少という根本課題は解決していないのが現状です。

市内には、伊豆箱根鉄道をはじめ多くの公共交通が、毎日走っています。しかし、十分に利用されていないのが実情です。今、真剣に公共交通について考えてみませんか。

「利用されない公共交通」を維持していくことは、とても困難です。次世代の子どもたちが使うはずだった公共交通が、失われた未来。そんな未来を望みますか。

「便数が少ないから、乗らない」とよく言われます。「ちょうど良い時間がないから、乗らない」とよく言われます。交通業界では「関心はあるものの、乗ってもらえない」と言われています。

「マイカーがあれば問題ない」、確かにそうかもしれませんが。では、いつまでマイカーに乗れますか。乗れなくなったらどうしますか。

特集

公共交通の「未来」のカタチ

政策推進課 ☎ 055-948-1413



予約型乗合タクシー「立花Go!」 実証運行実施中 「立花Go!」にかける住民の想い



立花地区と田京駅を結ぶ「立花Go!」のシンボルマーク。運行時は、タクシーに貼り付けられます。デザイン/国府方咲妃さん

予約型乗合タクシーとは
停留所や運行時間などを定めた、予約限定運行タクシーのことです。

取り組んだきっかけ

立花地区は、駅から遠く路線バスもありません。坂道も多く、車を持たない高齢者は買い物などの帰りに大変な思いをすることになります。何か良い交通手段はないかと考えていました。実は、平成28年度に予約型乗合タクシーを検討したことがあります。しか

普段の運転で心がけていること

最近では、買い物や通院などで利用される高齢のお客様が多くなったと思います。こうしたことから、転倒事故防止のため、足場の悪い場所での停車を避けたり、優しく運転したりするなど、お客様が安全に乗り降りできるように常に気配り運転を心がけています。

心に残ったエピソード

のどの調子が悪く、社内アナウンスで咳込んでしまった時がありました。あるお客様が、降りる際に「これ、のどに効くわよ」とあめを一袋もくれたのです。一つではなくて一袋も。その気持ちがあうれしくて、おかげさまで翌日にはのどが完治しました。

やりがいを感じる瞬間

やはり、運転を褒めていただいたときでしょうか。「安心して乗れたよ」よ

人と人・人と場所をつなぐ公共交通 ハンドルにかける運転手の想い

住民が語る

し、当時の区民アンケートでは「今は利用しない」という意見が多く、導入は見送りになりました。それから2年。市から再び話があり、地区役員で話し合いを再開しました。

乗合タクシーに期待すること

「乗り合い」ですから、知らない人同士が乗り合うこともあります。そこが新たなコミュニケーションの場となれば良いと思います。また、交通が不便な地域での移動手段の確保は、高齢者になれば誰もが関わる問題です。他人事ではなく、自分事として考えてもらう良い機会になればと考えます。

実証運行がはじまって

実証運行をスタートすることができてホッとしています。ですが、区民が乗合タクシーをどこまで理解し、利用してくれるのか、心配でもあります。今は、本格運行につなげることを目

今後の交通事業に願うこと

実は、女性の運転手は増えているんです。しかし、全国的にも運転手は不足しているのが現状です。運転手の仕事は、朝は早く夜は遅いなど、家族と過ごす時間が限られてしまうからかもしれないですね。働き方がもっと柔軟であれば、若い方にも交通事業の仕事に興味を持ってもらえるかもしれません。お客様とのふれあいも多く、安心を提供するというやりがいもありますので、まずは、交通事業全体をもっと多くの人が知ってもらいたいですね。

プロが語る



菟山小児童 114人も参加しました

「バスの乗り方教室」を開催

交通安全意識の向上と公共交通の利用促進を目的に、小学生を対象に「バスの乗り方教室」を開催。紙芝居式の説明や乗車体験などを通じ、バスのマナーや運賃の見方などを教えています。

Interview



伊豆箱根バス株式会社
鳥居智子 ドライバー

Interview



立花乗合タクシー推進委員会
佐々木務 会長

良い眺め！



路線バスで行く
源氏山公園

伊豆長岡駅からバスで約12分。温泉場上で下車し、徒歩で約15分。「いづみ荘」脇の道沿いに山を登ると、頂上には源氏山公園が広がります。春には満開の桜が楽しめ、反対の道からは古奈もみじ公園にも行くことができます。

路線バスで行く
温泉神社

伊豆長岡駅からバスで約10分。温泉駅で下車し、徒歩で約3分。伊豆長岡温泉の入口付近にある細い路地を進むと、温泉神社は見えてきます。創立沿革などは不明という小さな神社ですが、写真映えするスポットです。



映えますね！

好天だと富士も見えるよ！



歴バスのる～らで行く
蛭ヶ島公園

伊豆長岡駅からバスで約15分。源頼朝が配流された地と伝わる蛭ヶ島公園があります。源頼朝・北条政子の像や芝生広場、茶屋のほか、江戸時代中ごろの農家様式を残す歴史民俗資料館(旧上野家住宅)も併設しています。

歴バスのる～らで行く
坦庵公思索の道

江川邸と葦山反射炉を結ぶ古い山沿いの道(根方道)の一部。自然豊かなこの2.7kmの道を歩き、江川坦庵公は葦山反射炉まで通ったとされます。この道を歩けば、あなたも坦庵公と同じ気分を味わえるかもしれません。



木々の間を抜けると…



源氏山公園

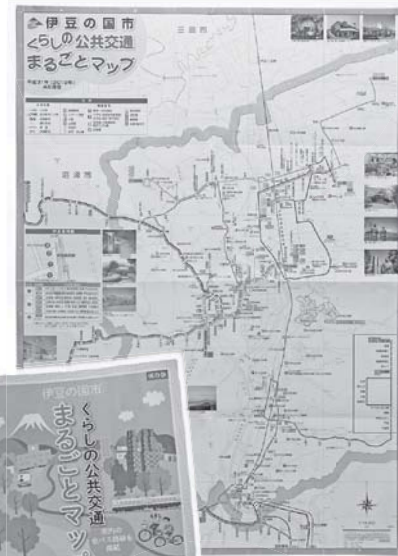
四季折々の楽しみが！



温泉神社

テクテク…

ご利用ください！
「くらしの公共交通
まるごとマップ」



市では、市内の全バス路線・バス時刻表を掲載した「くらしの公共交通まるごとマップ」を作成し、公共施設などに配架しています。

市内をめぐる「公共交通の旅」に、ぜひご利用ください。

政策推進課 ☎ 055-948-1413



蛭ヶ島公園

少し小高くなっています

葦山駅

狩野川

伊豆長岡駅



江川邸

伊豆長岡駅から歴バスのる～らで約20分

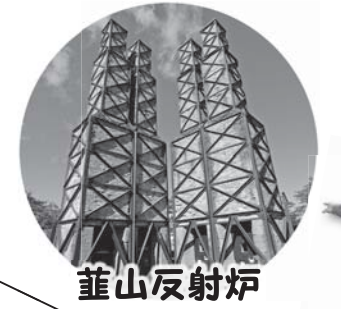
道中には、「花のおもてなしプロジェクト」による看板が設置。植物の情報が楽しめます。



農の駅
JAグリーンプラザ
伊豆の国

伊豆長岡駅から歴バスのる～らで約25分

新鮮な地元野菜をゲット！



葦山反射炉

伊豆長岡駅から歴バスのる～らで約10分

いろんな角度で楽しもう！

公共交通で出かけよう！
「伊豆の国市の魅力」
再発見の旅



7月からは、地域おこし協力隊員として市内で活動している林俊輔さん。
伊豆の国市にやってくる前は東京で暮らしていたという林さんが、伊豆の国市をもっとよく知るため、公共交通を利用して、市内各地をめぐるりました。
今回は、林さんが市内をめぐる中で、特に気になったというスポットを紹介します。

公共交通を利用して市内をめぐる時、これまでと違った風景が見えてくるかもしれません。
皆さんも、公共交通を利用して、市内をめぐるみてはいかがでしょうか。



行くぞー！

地域おこし協力隊
林俊輔 隊員